



# 高陵山 光明寺寺報 第5号

平成30年6月1日発行  
発行 石狩市八幡町高岡 16-2 光明寺内

光明寺ホームページ



6月に冬の話で恐縮ですが、近年の石狩は以前と比べ穏やかな冬を迎えています。それでも雪は降り積もるとその重量によりお寺の引き戸が開き辛くなり、今年も光明寺仏教壮年会の皆様境内除雪と屋根の雪下ろしを行って戴きました。お寺の裏側は西風の影響が想像以上の雪の量で、急遽パワーショベルを所有しているご門徒へ協力を仰ぎました。両手を添えてもなかなか開き辛かった引き戸が一連の作業後は気持ち良いほど片手で開くようになりました。当寺の教化団体である仏教壮年会は、ご先祖の命を御縁としお念仏を喜びとする朋友の集いで現在12名の会員が研鑽と懇親を深めていますが、平素からお寺の護持に多大なる御協力を賜っています。この度の除雪作業はお寺からの呼びかけではなく、壮年会が「自分達のお寺は自分で守る」という思いの下自発的に活動の一環として行われています。北海道の寺院は、開拓入植者が心の拠り所を要し、開拓民の手によって建立護持されてきたことが多いようです。時代は変われどもその思いが代々根付き皆様がお寺に足を運べるよう陰ながら朋友によって寺院を護られています。その御恩に報いるためにもお寺に足を運びましょう。最後に、大変な寒さの中を壮年会とご門徒の皆様には心から御礼を申し上げます。

## ～表紙からの続き～

昨年度に行われた壮年会の活躍についてお知らせ致します。

### 境内除雪の奉仕活動

除雪の続きですが、2月25日朝9時30分より第2庫裏の屋根から始まり、次に窓が雪で塞がりかけていた建物の裏側（東側）を除雪、続いて納骨堂屋根の雪下ろし、果ては住職使用の物置の雪下ろしまでみっちり3時間余り作業を行って下さいました。作業終了後は厨房で懇親を含め、



恒例のジンギスカン鍋で英気を養って戴きました。会員外でお手伝いの藤岡正明さんと松本文男さん有り難うございました。又、壮年会会員ではないのですが、



お向かいの平野信雄さん（左下写真）が昔からのご厚意で境内から本堂裏の住職宅まで除雪を行って下さっています。法座やご法事等で駐車場を確保しなければならない時は本当に助かります。原油高のこの時期に申し訳ないほど助けて戴いています。本当に有り難うございます。

### 井戸埋め戻しと境内整備

以前より懸案事項であった旧井戸の埋め戻しを、総代と壮年会の協力を得て6月16日に行いました。先ず、長年私達を潤して下さいました井戸へお礼の法要を勤めた後、砂利と砂を埋めその役割を終えました。当日は境内の清掃と整備も行って戴き、これもかねてより懸念していた本堂裏に永らく威風を表していたポプラの木を伐採し



ました。樹齢100年を優に超えるであろうその木は根元が腐り、いつ倒木してもおかしくない様子でしたが、一方が交通路、一方がお寺の車庫、そして木の両脇を電気線と電話線が走っているという厄介な場所にあり伐採に手をこまねいていました。ところでこのポプラには光明寺に纏わる些細な話があります。実は当寺の第2世坊守のリヤウ（現住職の祖母）が当別より当地へ嫁ぐ際、境内のポプラの木を目印にした（ということは、やはり樹齢は百数十年と思われれます）そうでもあります。その思いもあり、子である前住職はその木を切ることに強い抵抗があったようです。しかし前住職もご往生し、いつ被害をもたらすとも分からず、この際ということで撤去致しました。ただ、その当時のご苦勞を決して忘れることなく、寺門の興隆に努めることを改めて感じました。



🍷ポプラの根っこ

## ～更に壮年会の続き～

### 納骨堂の軒裏の修繕

昨年12月25日は異常な強風が吹く日でした。石狩大橋を渡る時も煽られて川に落ちるのではないかと、思うほどでした。ご門徒宅へのお参りの途中坊守から「庭木が倒れ、納骨堂の屋根に穴が開いている」と電話がありお寺に戻り確認するとアカシア?の木が幹の途中の中々の太さからボッキリ折れて倒れ、一方では納骨堂屋根の軒裏の耐火ボードが1メートル四方ほど吹き飛んで屋根材が丸見えの状態でした。翌日、総代と壮年会に助けを求めたところ早々にお寺へ駆け付けて下さり、とりあえず倒木の始末をお願いしました。軒裏は天候の都合もあり日を改めることになり、年内に直るか不安でしたが大晦日の前日に天候が晴れ「今だ!」ということで急遽総代と壮年会へ出動をお願いしました。それぞれが修繕に必要な道具を手に集合、トラクターのバケツ



トにコンテナを積みその上に人を乗せ大工作業で鮮やかに直して下さいました。「何もこんな年の瀬に壊れなくても」と思っていたところ先日、報道番組で世間を騒がせた成人式の晴れ着の事件に「何も成人式当日にこんな騒ぎを起こさなくても…」似た話があるものだな、と。何時何が起こるか分からないのが娑婆の諸行無常です。それにしても農家の人は工夫一つで何でも自分でやってしまい実に驚かされます。

### 札幌組壮年の集いに参加



昨年7月1日に中央区の札幌別院を会場として開催の「札幌組壮年の集い」に参加しました。当日の内容としては、お参りから始まり各御寺院の仏教壮年会がどのような活動を行っているかの紹介があり、その後ご法話を戴きました。この日のご講師は遠く富山県から初瀬部先生という女性の布教使さんがお見えになりました。以上で式典は終了、会場

を移し参加者全員での懇親会となりました。壮年会やお寺への熱き思いを語るには限られた時間では足りないようでしたが、締め乾杯は当寺の越後浩義さんが務めお開きとなりました。仏教婦人会に比べ壮年会はまだまだ組織している寺院は少なく、今後壮年会結成促進を誓いました。



光明寺仏教壮年越後浩義さんの乾杯

仏教壮年会は以上のような奉仕作業もありますが、月1回の例会は和気あいあいと楽しく過ごしています。住職がお参りの時にお誘いした時は迷わず「ハイ!」と言ってください。お酒が飲めない方も大歓迎です。

## 宗祖聖人報恩講



本年も総代、役員、当番地区、壮年会、婦人会の皆さまの多大なるご協力の下、2日間に亘り報恩講が修行されました。布教使は、秋の永代経でお馴染みの黒田顕城師（左写真）にお越し戴き全5座のご法話を戴きました。

### 【初日】

今年より初日の日中法要を「門信徒物故者追悼法要」と併修し大勢のご遺族の皆様と共に御参りを行い尊い御縁を戴きました。又、本年4月を



もって厚田の本照寺住職を退職される寺内俊雄師（右写真）より丁重なる御挨拶を賜りました。本照寺様は近隣寺院でもあり、当寺とは密接なお付き合いを戴いています。当寺の前住職とはウマが合ったのかどうか分かりませんが、お互いの報恩講には、杯を片手にまるで漫才のような掛け合いが思い出されます。今後、厚田の本照寺様には現在太美松雲寺住職の竹澤一深師が就任し、松雲寺様には竹澤師のご長男が住職就任の運びとなります。永らくご縁を戴いた寺内御住職のご退職は寂しいことではありますが、新居は札幌市内に構えるとのことで、何かしらのご縁は引き続き戴けるものと思います。夜には恒例の余興を共々に楽しみました。先ずは「高岡手踊り同好会」より踊りを披露戴きその後、ビンゴ大会を開催、全員が景品を手にして散会となりました。尚、余興の司会進行は例年仏教壮年会の皆様に行って戴いています。

### 【2日目】

昨年度で総代を退任された松本丞様へ感謝状の贈呈式を行いました。平成19年に総代、23年からは総代長に就任戴き、寺門護持に多大なる御功績を残されました。総代長就任早々、住職の交代の記念法要、2世坊守と前住職の寺葬、本堂の改修工事と寺史に残るであろう幾多の事業に門信徒の先頭に立ち、光明寺をけん引されました。住職の入院騒動でも大変ご苦勞をおかけし思い出すと今でも心がチクチクと…。報恩講の最後には、布教使の黒田師と出勤の御法中へ御参りの皆様と御礼を申し上げ、無事に全日程を修行致しました。



## 本堂向拝（正面玄関）改修寄付額を設置しました

平成27年に行いました本堂向拝（正面玄関）改修工事の御寄付御芳名額を本堂に設置致しました。昨今の経済状況の厳しい中での御寄付の御依頼でしたが、あるご門徒の方へ工事と御寄附の説明をおおと申し上げたところ「お寺の護持は檀家に頼り難いことだから」と大変有り難い言葉を戴いたことがいまだに忘れられません。今後共、ご門徒の皆様には御協力の程、伏してお願いを申し上げます。



## 秋の永代経法要

秩父別町より常楽寺ご住職の山本徹浄師（右写真）を布教使にお迎えし、寺門の護持に特段なるご協力を賜った先達の皆様へ御礼を申し上げる秋の永代経法要をお勤め致しました。山本徹浄師はご住職である一方声楽家の顔もあり、法要当日も歌手の中島みゆきさんの『糸』を迫力の声量で歌い上げ、曲中の「♪縦の糸はあなた～ 横の糸はわたし～」の歌詞をご法話に絡め分かり易くお話し下さいました。「縦糸と横糸で織りなして出来上がった1枚の布は人々の心を温めることが出来るでしょう」との詞を、縦糸を仏様、横糸はこの私に例え、自分の力で生きているように見えるこの自分自身が、実は亡きご先祖、亡き父母の仏さまと離れることの出来ない縁によって繋がっていることの有難さを、また、その縁が永代経法要の場に一人ひとりをご導いて下さったことを御教示下さいました。今年も様々お寺の伝統法要が行われます。又、皆様がお寺へ気が向くよう時代に即応した行事など考えてまいりますので皆様のお参りをお待ち申し上げます。



## 御正忌法座と光明寺定期総会

1月15、16日は浄土真宗の開祖、親鸞聖人のご往生を偲ぶ御正忌法が営まれました。親鸞聖人のご命日は1262年1月16日ですが、逮夜法要とって仏教ではご命日当日に先立ち前日から亡き人を偲びお参りを行う慣習があります。逮夜の「逮」というのは“およぶ、”という意味です。逮夜は、次の日におよぶ夜ということになります。そこで、忌日の前夜とか年忌の前夜のことをお逮夜といいます。以上の理由から光明寺では親鸞聖人の祥月命日の当日と前日の2日間お参りを行っています。初日は皆様とお参りの後、住職が、1席目は親鸞聖人の御生涯を、2席目は住職の病氣療養の時の話から「諸行無常」についてお話をさせて戴きました。時間は皆平等に容赦なく過ぎてゆきます。世間では、寺参りにふさわしい年齢というものがあるようですが、ふさわしい年齢に差し掛かる前に終わるかもしれぬ命を生きている私達です。皆様も命ある今お参り下さい。2日目はお参りの後、お斎（昼食）をご参拝の皆さんと戴きました。お斎は婦人会が朝から集まり調理から後片づけまで大変なご協力を戴いています。午後からは過ぎた1年を振り返ると共に、来たる1年に向けて定期総会を開催、寺門の護持と発展に向けたご意見を種々賜り、実りある総会となりました。総会終了後は新年会に移行し、ゆっくりの人は約12時間もお寺に滞在して戴き夜は更けてゆきました。



## 御霊前と御仏前の違い

「御霊前」と「御仏前」の違いは？ どう使い分ければいいのか？

皆様は「御霊前」と「御仏前」の違いは何かをご存知ですか？

よく法要事の袋の表書きを書く時などにどちらを書けば問題ないのか？と悩まれることかとは思いますが、これは仏教においての一つの考え方が現れており、また同じ仏教であっても考え方の違いにより使用されないこともあります。

ではその違いを詳しく見てみましょう。

まず御霊前というのはどういう意味かということ、仏教の教えでは、人の死後～四十九日までの間は、「霊」としてとらえる宗派があり、霊である魂をこの世で静め仏になる準備をされていると考えられています。ですから霊を信じる宗派の場合は、四十九日までの間は、御霊前と考えるのが一般的です。

御仏前は、四十九日を過ぎ、霊である旅を終えられ、仏様となった時からこの御仏前という言葉を用いられるようになります。ですから、四十九日や一周忌など、それ以降の法要は全てこの御仏前が使用されます。

### 浄土真宗では？

しかし同じ仏教の教えであっても、霊の存在がないと考えている宗派があります。それらは、**浄土真宗**、日蓮正宗でこれらの宗派の考えでは**霊の存在を認めておらず、人は亡くなって後、迷う間もなくすぐに仏様となると示されています。これらの宗派では通夜や告別式など、四十九日前であっても御仏前を使用します。**お葬式の場合、仏様にお供えする言葉として、一番差し支えない言葉は、「お香典」「お香資」が宗派を問わず使用出来る言葉です。普段使用する言葉ではありませんし、それぞれの宗派の考えを深く理解していなければなかなか難しい言葉ではありますが、少しでも知識として頭に入れておけば相手に対しても失礼のない対応が出来ると思います。



人生には数々の節目を迎えます。「死」も節目の一つですが、他にも命を授かることや結婚等の喜びの縁があります。

日本人は宗教を自分の都合によって使い分ける国民性と言われます。お誕生や起工式、上棟式は神社へ、結婚はキリストさまへ、死んだらお寺へ、という具合です。信仰が神道であれば全て神社で、アーメンであればキリスト教式で、仏教徒であれば仏教式で行うのが本来あるべき姿です。もし、お寺の施設の起工式に神主様が見えて祝詞を挙げていたら皆さんどう思うでしょうか？

宗教、中でも仏教の場合仏事に対してお包みする金封はどんな場合でも『黒白の水引』と思い込んでいる方もいますが、悲しみの縁は『黒白』喜びの仏事は『紅白』で一般の感覚と変わりありません。

## 納骨堂ご利用上のお知らせ

光明寺門信徒並びに納骨堂ご利用の皆様には平素より納骨堂の運営にご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

かねてから納骨堂について「いつ開いていますか?」「施錠されて入れない」等々ご不便やご不明な点がありました。

光明寺納骨堂は皆様の施設です。御先祖へお参りし易いよう下記の通り決めましたのでご参照下さい。

下記以外は防犯上の理由により施錠していますが、お参りをご希望の時は解錠致しますのでどうぞお気軽に下記連絡先までお知らせ下さい。

**(当日不在のこともありますので出来れば前日までに)**

平成30年3月1日より施行します。皆様にはご親戚等有縁の皆様へもお伝え下さいますようお願い致します。

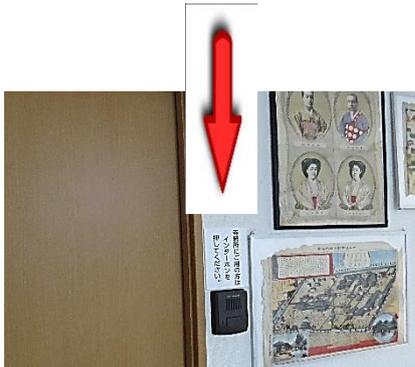
### 【納骨堂開放期間】

	期 間	時 間
①年 末 年 始	12月30日～翌年1月3日	朝 8 時から夜 8 時
②春秋のお彼岸	彼岸入りから彼岸明け 中日と中日の前後各3日ずつの全1週間 年度で替わりますのでカレンダーを参照下さい	朝 8 時から夜 9 時
③お 盆	8 月 5 日 ～ 2 0 日	朝 7 時から夜 9 時
④報 恩 講	1 0 月 2 1 日 ～ 2 3 日	報恩講が行われている間 22日は終日

### 【お願い】

- ※1 納骨堂へお参りの際は中央の阿弥陀様とご本堂へもお参りしましょう。
- ※2 お参り後、お供物は持ち帰り仏様からのお下がりとして私達が戴きましょう。(後片付けの手間、経費の理由などではなく)与えられた食の恵みに感謝し、仏様へご報告を申し上げるのが本来の意味です。お供え本来の形で仏縁に出会う為、ゴミ箱ではなく皆様の口へ運びましょう。
- ※3 管理者である住職も手探りの部分もありますので皆様からも今後の改善点などお気づきの点ございましたら遠慮なくお申し出ください。
- ※4 本堂横廊下、寺務所(住職宅)の渡り廊下入り口にインターホンを設置しました。寺務所へご用の際はご活用下さい。

又、お盆に向けて納骨堂へも連絡用にインターホンを設置致します。



本堂奥の住職宅への渡り廊下

### 連絡先

0133-66-3476(光明寺代表)  
又は 66-3411(前坊守の庫裏)  
fax0133-77-8336

## 平成30年度(2018)のご法座、行事予定

6月21日(木)	午後1時30分	見 <sup>けん</sup> 真 <sup>しん</sup> 大 <sup>だい</sup> 師 <sup>いし</sup> 降 <sup>ごう</sup> 誕 <sup>たん</sup> 会 <sup>え</sup> 法 <sup>ほう</sup> 座 <sup>ざ</sup> (石狩真宗連合会会員御寺院御出勤)
	引き続き	石狩後見サポーターズ講演会
	法座終了後	お齋 <sup>とき</sup> の御接待(仏教婦人会のご協力)
6月24日(日) 朝8時30分出発	<b>門信徒日帰り研修旅行</b> 厚田本照寺様～道の駅 石狩あいろーど厚田～浜益～ 月形樺戸博物館～北欧の風 道の駅とうべつ	
8月16日(木)	午後1時	納骨堂感謝法要 (納骨堂にご縁の方はお参り下さい)
	午後1時30分	盂蘭盆会法座
10月22日 (月) ～23日(火)	親鸞聖人報恩講法要 布教使 増毛町西 <sup>さいぎょうじ</sup> 曉寺住職 藤 <sup>ふじ</sup> 順 <sup>じゅん</sup> 生 <sup>しょう</sup> 師	
	22日午前11時	門信徒物故者追悼法要
	22日午後1時30分	納骨堂総追悼法要
11月18日(日)	午後1時	秋季永代経法座 布教使 札幌市 <sup>かくえいじ</sup> 覚英寺 黒田 <sup>くろだ</sup> 顕城師

門信徒皆様のお寺です。自分一人の為の仏縁に出会いましょう。

皆様のお参りをお待ち申し上げます。

**後記** 以前は「高岡=吹雪」が代名詞でしたが今冬は言うのもはばかられるほど  

 楽でしたが寒さは変わりなく、本堂や廊下へ用事に行くにも上着で防寒に努めなければなりません。ようやくの春を迎えても寒かったり時季外れに暑かったりと、そんな中お寺の桜が咲きました。前住職が晩年に買って来たときは1mそこそこだったのが今ではゆうに住職の背丈を超えました。何という桜か分かる人は教えて下さい。**文責=住職です**